

問 災害対策はどうなる
白岡と篠津地区

指定避難所の見直しをするとのこと。消防篠津分署も保健センター分館も周辺住民にとっては安心安全を感じる施設で心の支えになっていた。民間の大規模施設や地域の寺社などから災害対策に関し、連携協力が得られないか。

答 民間事業者と引き続き
協議を進めていく

指定緊急避難場所については、保健センター分館の解体に伴い指定を取り消すとともに、白岡市役所篠津分館を新たに指定する予定である。民間事業者との災害時における市との連携については、設置される施設の状況を踏まえ、引き続き、協議を進めていく。



黒須大一郎 議員
(白岡ビジョン)



閉鎖される新白岡駅東口
自転車駐車場

問 一刻も早く公共施設統合
再編実施計画を

一昨年2月に出された個別施設計画の対応方針に対し、新白岡駅東口自転車駐車場や保健センター分館の廃止など違うことが起きている。秩序をもって事務執行を適切にしていくはずが、計画無視で進められている。どんな理由で今後どうするのか。

答 公共施設再編実行計画の
策定を進める

施設利用者の減少や代替施設の確保など計画策定後の理由により、廃止と判断した施設がある。公共施設の維持管理は、施設利用者の安心・安全に配慮しながら、合理的・効率的に行う必要がある。そのため、今後は公共施設再編に向けた実行計画の策定を進める。

問 病児保育の実現を

子どもが病気になったとき、一時的に保育してくれるのが病児保育である。当市に住みたい、住み続けたいと思う子育て家庭には、是非とも必要。近隣で実施していないのは、当市と蓮田市だけ。なぜ実現できないのか。実現するためには何が必要か。

答 保育所新規開設時等に
実施を促していく

病児保育は、病児を預かるリスクに加え、人員確保や設備投資に対する負担から、導入が難しい事業である。

保育所の新規開設時など事業者に実施をお願いしていくとともに、国、県に対し、補助等の支援策の拡充を求めていく。



斎藤信治 議員
(WAKABA)



教育支援センターが入る
予定の施設

問 教育支援センターを
居場所に

不登校児童生徒76名のうち教育支援センターを利用しているのは12名に過ぎない。不登校児童生徒は学校を拒否している。教育支援センターが学校とは違う組織となることで、子どもたちが安心できる居場所となり、保護者には相談機関となるのではないか。

答 児童生徒のニーズを
把握した支援を行う

児童生徒一人一人の願いを大切にして、それぞれに合った形で支援を行うことが大切である。教育支援センターは、自分に合ったペースで通室ができ、魅力的な居場所になれると考える。今後も児童生徒の悩みに寄り添い、ニーズを把握し必要な支援を行っていく。